

# 令和7年度 堺市 英語教育改善プラン

## 目標

自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な資質・能力の獲得  
○「英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う」の児童の割合向上 (R6: 79.4% ⇒ R7: 81%)

言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①外国語の勉強は大切だと思う児童の割合 (堺市教育委員会調べ)

R5 6年: 90.4%

→R6 6年: 91.7%

②外国語の授業で、先生や友達と外国語で話すとき、話の内容を理解しようとしている児童の割合 (堺市教育委員会調べ)

R5 6年: 88.7%

→R6 6年: 89.4%

### 未だ改善が必要な点

①英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思う児童の割合 (堺市教育委員会調べ)

R5 6年: 80.4%

→R6 6年: 79.4%

②外国語の授業で、自分の考えや気持ちを英語で話している児童の割合 (堺市教育委員会調べ)

R5 6年: 78.7%

→R6 6年: 78.7%

③R7新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合  
目標値: 50% 達成値: 9.8%

## 2. 要因分析

①②年間を通した、授業改善に関する研修を実施してきたことで、各校において児童の言語への興味関心を高めることにつながり、外国語の学習が大切だと思う児童や、外国語で話すときに話の内容を理解しようとする児童が9割程度の高い水準で推移していると考えられる。

①②英語を使ってコミュニケーションを図りたいと思い、実際に考えや気持ちを英語で話している児童が8割程度にとどまっているのは、授業においてコミュニケーションを図る目的や場面、状況の設定や自分の思いや考えを表現する機会が十分に確保できていないことが要因であると考えられる。

③採用者数の大幅な増加や求める資質・能力の多様化により、目標を下回ったが、昨年度より、達成値は1.2%増加した。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

### ①②①②外国語活動・外国語科指導者研修の実施

各学校1名の参加者を対象とし、言語活動を通じた指導の在り方等についての研修を年3回程度開催する。講義やワークショップを通して、学習過程や言語活動を意識した指導計画を立て、主体的な児童を育成する指導ができるようになることを目的とする。

### ①②①②担当教員が取組共有する場の充実と小中連携の推進

専科教員や英語教育を推進する教員を対象とし、各校の取組内容を共有する協議会や研修を年5回以上実施し、授業改善の実施に係る取組を協議する。また、年間を通じて中学校の授業を参観できる機会を設け、言語活動を通じた中学校での取組を指導に生かす。

### ①②①②専科教員が互いの授業を参観する機会を設ける

専科教員が「指導と評価の一体化」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学習者用デジタル教科書の活用」の3つのテーマで、グループ別研究、授業を公開し、互いの取組から学ぶ機会を設ける。

### ③一定の英語力を有する者の採用に向けた計画

採用試験において、『小学校の免許に加えて、中学校英語免許を有していること』を資格要件とした『小学校外国語推進』枠の設置及び大学等推薦対象選考の対象に追加、「小学校での、英語検定等有資格者に対する加点の対象拡大」等により、一定の英語力を有する者の確保を図る。

# 令和7年度 堺市 英語教育改善プラン

## 実際のコミュニケーションにおいて活用できる実践的な資質・能力の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 59.8% ⇒ R7 : 62%)

### 目標

- 言語活動
  指導と評価の一体化
  教師の英語力・指導力
  校種間連携
  ALTの参画
  ICTの活用
  AIの活用
  その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

#### 改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合  
R5:57.8%⇒R6:59.8%

②生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業を実施した割合  
R5:88.4%⇒R6:95.3%

#### 未だ改善が必要な点

①授業で生徒の英語による言語活動を50%以上実施した学校の割合  
(R5英語教育実施状況調査)  
R5:51.9%

②令和5年度全国学力・学習状況調査において「社会的な話題について考えと理由を書くこと」の問題における無回答率  
本市:34.2%全国:29.3%

③パフォーマンステストの実施  
(R5英語教育実施状況調査)  
【話すこと】R5:97.7%  
【書くこと】R5:63.6%

### 2. 要因分析

①②授業における学習者用デジタル教科書の活用やオンライン英会話の実施により、「ICTの活用状況」が改善し、4技能を統合して育成することができ、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が向上したと考える。

①「言語活動を通した指導」において、昨年度同様、課題がある。授業改善に係る取組を推進してきたものの、教師の意識の差や言語活動に関する実践の共有が十分でないことが要因だと考えられる。

②③全国学調の結果から「自分の考えや理由を書くこと」に課題が見られる。ALTの活用やオンライン英会話により「話すこと」の言語活動は充実してきたが、「書くこと」の言語活動の実施率が依然として低い。英作文の添削やフィードバックは個別の指導となり、言語面と内容面で修正に時間を要するため、十分な指導ができていないことが要因だと考えられる。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

①①②③「英語指導力向上研修」の実施と「研究校による公開授業」の実施  
学習指導要領が求める学びの実現に向け、「言語活動を通した指導」を視点に授業改善やパフォーマンステストの質の向上をねらいとした、英語科教員を対象とした研修を実施する。また研究校3校による公開授業及び研究発表を実施し、取組内容や成果について周知し、各校の授業改善につなげる。また、研修内容等が各教員の実践に結び付くよう授業を参観し取組の改善につなげる。

#### ①②③英語教育を推進する教員が取組共有する場の充実と 小中連携の推進

研究指定校の担当教員を対象とし、取組内容を共有する協議会を学期に1回開催し、各校英語科の組織的な授業改善に向けて情報交換や協議を行う。また、年間を通じて小学校の授業を参観できる機会を設け、言語活動を通した指導について小学校での取組を中学校での指導につなげる。

#### ①②授業改善につなげる資料「結果及び分析」の作成

教育センターが成果や課題のあった各種調査の設問をもとに「結果及び分析」の資料を作成し、授業における学習のポイント等を示し、各校における指導の充実を図っていく。

#### ①②③「AIを活用した英語教育強化事業」による実証研究

「AIを活用した英語教育強化事業」の委託を受け、モデル校による「書くこと」における言語活動の充実に生成AIを活用し、実証研究に取り組む。取組の内容的な成果について周知し、各校の、ICTを活用した授業改善につなげる。

# 令和7年度 堺市 英語教育改善プラン

的確な理解や適切な表現による実践的なコミュニケーションを図るための  
資質・能力を育成する

## 目標

言語活動 
  指導と評価の一体化 
  教師の英語力・指導力 
  校種間連携 
  ALTの参画 
  ICTの活用 
  AIの活用 
  その他  
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①授業で生徒の英語による言語活動を50%以上実施している割合100%の維持
- ②パフォーマンステストにおいてスピーキング及びライティングの両方実施が100%
- ③発話の50%以上を英語で行っている割合100%の維持

未だ改善が必要な点

- ① 英語の授業等におけるICT機器の活用状況・発表、やりとりに活用  
R5→R6:  
50%以上の授業で実施  
→50%未満の授業で実施

### 2. 要因分析

①②③これまでの取組の継続による効果であると考えられる。  
また、授業改善により、生徒の英語の学習に対する意識の変容が見られた。

- ①授業でのICTの活用については、教員の活用は進んできたが、生徒が活用することについては課題が見られた。活用方法について教科会で共通理解を図り、授業で生徒が活用する場面を設定する。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②③ **ALTの効果的な活用を含めた即興性を重視したやり取りの活動の実施**  
授業において、生徒のコミュニケーション能力の育成を目的に、ALTも活用しながらグループでのやり取りや即興性を重視した活動を行う。
- ①②③① **「英語指導力向上研修」の実施、「英語資格・検定試験の特別受験制度」の積極的な活用の推進**  
学習指導要領が求める学びの実現に向けた授業改善やパフォーマンステストの質の向上を目的に、英語科教員を対象とした研修を中学校と合同で実施し、情報交換も行う。また、教員自身が英語力向上を図ることができるよう特別受験制度等も活用する。
- ① **ICTを活用した英語授業の推進**  
生徒が自ら学ぶ場面でのICTの効果的な活用について、校内で実践事例の共有を行い、各授業での推進を図る。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

堺市教育委員会

堺市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (%)	100	100	100	100	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (%)	100	100	100	100	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	100	100	100		100		100		100	
		公表 (%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握 (%)	100	0	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (%)	70	67	70	29	70		70		70			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	100	100	100	100	100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)	65	58	60	60	62		65		67		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (%)	70	52	60		65		70		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (%)	85	64	70		72		75		77		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	100	86	100		100		100		100	
		公表 (%)	40	42	50		55		60		65	
		達成状況の把握 (%)	65	63	65		70		75		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (%)	40	38	40	37	42		45		47		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	65	34	55		60		65		70			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	75	76	90		100		100		100
		公表 (%)	20	25	50		60		70		80
		達成状況の把握 (%)	50	51	70		80		90		100